

5/17
Ⅷ-801

幼児の読書と親の態度

西本美節
神戸常盤短期大学

目的： 人間が一番弱い動物でありながら、最も生活力に富んだものとして生き続けてこられた理由の一つは「言語」を有することである。言語は単に思想・意思や感情の表現・伝達に用いられるに止まらず、思考の道具として役立てられ、われわれの精神生活を支え、文化を発展させる原動力となっていることは、周知の事実である。幼児が音声言語を獲得する能力は、乳児期からの母子関係の中で育まれる。母親や周囲の人々の言語環境の中で様々な要求を満たす手段として音声言語を用い、その表現法を学習していく。幼児にとって言語学習の場である家庭は、ますます核家族化される一方、テレビの普及により幼児の語いの増加や、早期の文字学習は見られるが、人間関係を深めるのに必要な話し言葉や思考の道具としての言語は、果して現在の家庭生活の中でうまく育まれていくだろうか。※24回大会で報告した「TV視聴に対する子と親の態度」調査では、TV視聴の時間が長く、親子の人間関係を希薄にしている状態が多く見られたので、※26回大会では、TVに奪われた残りの僅かな貴重な時間を、母子がどのような接触の仕方を通して過しているかを観察して、「子どもの興味と母親の態度」として報告した。ここでは、子どもが母子関係を探める会話を母親に求めているにもかかわらず、母親の言動は命令・禁止・干渉などに偏っていること、子どもの興味の対象は、創造的・構成的な遊びよりも受容的な遊びに傾いていること、母親が子どものわずらわしさから逃れる手段として、放任するか・雑多に絵本などを買い与えるかの態度が多いことが見られた。

最近では、子どもの興味の王座をTVに奪われたが、それでもなお街頭には子ども向けの絵本や雑誌など文字文化財が氾濫している。言語文化財と

しての物的条件の拡充は好ましいことと言えるかも知れないが、果してどれだけの親が、本来の情操教育をふまえた文化財を選択できるであろうか。表紙の豪華さに比して、その内容が子どもの発達段階や要求に適合したものであるかどうか、また買い与えた本が子どもとどのような関わりをもっているかなどについて、関心を示す親が果してどれだけあるだろうか。

子どもの年齢や、性別によっても読書に対する親の関心や態度は異なるだろうし、一人子の場合と、きょうだいの出生順位による違いなどもあるだろう。

音声言語と文字言語とにかかわらず、言語が人類にとって最も重要な役割をもつものであるだけに、両親がその生活にどれだけ言語文化財を取り入れているか、或いはどれだけ関心を示すか、鍵となるのではなかろうか。親の模倣によって学習される表現活動であるだけに、無関心ではられない問題が山積している。

そこで今回は、各家庭生活の中で子どもが本を読む時刻、本を読むのに費やす時間、1冊を読み終えるのにかかる時間、本の種類・大きさ・頁数などの実態をつかみ、その時の子どもの活動と、母親の態度を観察し、分析し、更に、父親・母親それぞれの言語文化財に対する関心の実態をつかみ、子どもに対する読み聞かせの有無、子どもが好むお話、絵本、購入の動機などを調査して、親自身の態度と子どもへの影響を男児と女児・子どもの年齢によって比較研究しようとした。

方法： 観察法および面接調査法による。

○観察に当たって観察者は各家庭を訪問し、場面見本法・時間見本法を用いた。生活時間の中で、読書に関する時間のみを抽出し、その間の親と子の状態を観察し、記録した。観察に際して観察者は、家庭生活になじみ、母親と子どもの両方に親密になっておき、言動の記録が行われていることを気付かせぬよう配慮した。子どもの読書や、親の読み聞かせは毎日必ず行われるとは限らないので、その機会をとらえるのがむずかしい。また一日の間に数回切れ切れに行われることもあるので、

観察者が調査対象の親子と一日中生活を共にすることの必要性もでてくる。従って調査対象者に警戒心を抱かせたり、緊張させたりしないよう、観察者にとって身近な家庭・親しい家庭を選ばせることにした。

○面接調査に当っては、母親を主本とし、可能な場合は父親にも直接面接した。子どもの所有する本についての調査は、面接しながら行った。対象が親自身であるため、見えを張ったり恥をかきかすることで建て前と実際とのずれが出ないように注意し、観察法の場合とほぼ同じように、観察者にとって身近な親しい家庭を対象として選んだ。

観察者・調査者は調査対象者とうポートをもつことは大切だが、記録に当っては、臆測や先入観にとらわれず、客観的に行うよう心掛けた。

観察記録用紙

月	日	読書種類・内容	子どもの行動	母親の行動
時	間			
時刻				
日				

対照できるように同じ行に記録

面接調査項目

(A) 父親について

- 1 本を読むのが好きか(好き・きらい・興味がない・その他)
- 2 1か月に何冊くらい読むか(1・2・3以上・2冊以下・6冊以下・その他)
- 3 どんな傾向の本を好むか(.....・時にならない)
- 4 この1年間に買った書名(5~6冊まで・なし)
(雑誌・仕事上の専門書は省く)

(B) 母親について

- 1~4 上記父親についての項目と同じ

(C) 子どもに絵本を読んでもやめるか(はい・いいえ・時々・その他)

- 2 子どもと絵本を読んだあと話し合うか。(令上)
- 3 子どもに童話を読み聞かせているか。(令上)
- 4 どれくらい読み聞かせているか(毎日・週3回くらい・時々・月1回)
- 5 どれくらい長さか。(約...分、大体...頁など)
- 6 子どもに図鑑を説明してやるか。(回答1~3と同じ)
- 7 子どもに雑誌を読んでもやめるか。(令上)
- 8 本にない童話を話してやるか。(令上)
- 9 どんなお話か題名は何か。(○ ◎ ③)
- 10 おとぎ話はなしをしてやりませうか。(回答1~3・6~8と同じ)
- 11 どんなおとぎ話か。題名は何か。(① ② ③)

(D) 絵本の中で子どもが好むのは何か(① ② ③)

(E) 童話の中で子どもが好むのは何か(① ② ③)

(F) 子どもの所有書籍の実態

	絵本	童話	雑誌	図鑑
現在所有している数	冊	冊	冊	冊
大きさ(所有する数の大半を占めるもの)	cm			
頁数(")	頁			
出版社別()				
金額(円未満)				
所有する期間(3月・6月・1年・3年以上)				
購入動機(子が選ぶ・親が選ぶ・その他)				
利用度の高い順位(1位・2位・3位)				

(G) 今後子どもの読書についてどのように考えているか。

○調査期間および調査地 1947年11月~1949年12月
対象: 大阪など阪神地区一帯

地域別 (%)

住宅地	郊外地	団地	農山村	高層街	工場地帯	その他	計
47.0	17.9	7.3	15.2	4.9	1.5	6.2	100

職業別 (%)

	医師	学者	商業	会社員	公務員	技術	熟練	半日	農業	その他	主婦
父	6.7	4.2	8.2	48.2	11.7	4.1	8.2	26.6	1.9	4.2	0
母	4.8	0.7	3.1	3.2	1.7	0.6	2.0	1.9	1.6	2.4	78.0

最終学歴別 (%)

	中卒	高卒	短大卒	大卒	その他	計
父親	8.8	39.9	0	34.5	16.8	100
母親	9.3	53.8	10.5	6.9	19.5	100

同居家族 (%)

	祖父母	祖父	祖母	その他	なし(核)
3才児	15.5	1.0	11.2	0.5	71.7
4才児	14.9	3.0	10.1	3.0	69.0
5才児	11.9	1.9	11.5	2.3	72.3
平均	13.8	2.0	11.0	2.0	71.2

同胞 (%)

	1人子	2人	3人	4人以上
3才児	26.7	54.4	16.0	2.9
4才児	13.3	60.0	22.2	4.5
5才児	8.4	65.4	20.5	5.7
平均	15.9	60.3	19.4	4.4

子どもの年齢別・性別人数 (人)

	3才児	4才児	5才児	合計
男児	131	112	186	429
女児	150	113	146	409
合計	281	225	332	838

結果: 別紙参照

○詳細なデータは学会当日配布するプリントを参照していただきたい